



〒247-0063 神奈川県鎌倉市梶原 3-18-10

TEL:080-7968-0059

E-mail:lgjkamakura@nifty.com

HP:http://www.lovegreenjapan.org/

発行者 鈴木倫子

編集責任者 木村雅子

## JICA 草の根技術協力事業、採択決定！



2022年度 JICA 草の根技術協力事業に採択されました。同事業では、設立当初から関わっているカブレパランチョーク郡パンチカール盆地で、これまで推進してきた循環型農業の更なる発展とともに、安心・安全野菜のマーケティングに取り組み、地元パンチカールや首都カトマーズなどで安心・安全野菜を差別化して出荷・販売する仕組みづくりを目指します。

2022年12月まで5年間にわたり、同市で実施してきた事業では、循環型農業を通じた土壌改良や農業人材の育成を行いました。また同時に、研修やラジオでのPRなどを通じて農薬の危険性や環境保全に関する啓発活動を展開しました。その成果として今、現地における安心・安全野菜の生産量は事業開始当時から16倍にも増え、環境や健康に対する人々の意識も高まっています。

しかし現在のネパールの販売体制では、農薬や化学肥料を使用して作る野菜も農薬不使用で作る野菜も区別されることなく、混在して重量制で販売されています。

新規事業では、対象地域で収穫される野菜を「安心・安全」の付加価値をもって販売できる市場を開拓し、環境にも健康にも良い野菜作りで地域が発展していくように取り組みます。

# ネパールの里山を守る

「タハ市の里山における水と土の環境を次世代に繋げる活動（マクワンプル郡）」  
（2020年4月～2023年3月：地球環境基金（独立行政法人 環境再生保全機構）  
完了報告

## ■ 事業の始まり

本事業の対象地、マクワンプル郡タハ市は、2010年から数年にわたり当会が循環型農業の普及活動を行ってきた場所です。域内には伝統的な家屋や生活様式が残る地域もあり、どこか懐かしさが感じられる里山の風景が広がっています。

しかし近年の目覚ましい開発に伴う環境の変化は農村部にも及び、タハ市でもゴミの散乱や川への汚水の垂れ流しなどで里山環境が損なわれつつありました。

「ネパールの里山を次世代に残したい」。その想いが本事業の始まりでした。

タハ市は都心からのアクセスも良く、観光スポットも近くにあります。そこで循環型農業の普及に加え、エコツーリズムをととした里山保全の活動を開始しました。

## ■ 2つのねらいと4つの活動

環境保全活動の重要なポイントは「継続」にあります。モチベーションを維持するため、エコツーリズムの導入を組み込みました。開発だけではなく「自然と寄り添いながら生活する」といったことを示し、かつ金銭的なメリットを得ながら、里山の環境を継続して維持していくのがねらいです。もう一つのねらいは、里山景観のモデル地域をつくること。モデル地域をつくることにより、タハ市、ひいてはネパール全体の環境意識を底上げすることです。

事業では、2つのねらいをもとに、4つの活動を組み立てました。

活動1：若年層を主体とする環境保全普及活動
活動2：川辺やバザールにおける環境美化活動
活動3：里山の維持管理
活動4：エコツーリズムの導入



（カトマンズとタハ市の位置地図）

活動1は、将来にわたる継続を念頭に置いた、若年層をターゲットにした取り組みです。学校などで600人以上に環境教育を実施し、啓発活動のため看板やパンフレットを作成しました。

活動2では、川やバザールに落ちているゴミを清掃しました。なんとその総量16トン以上。800人以上が参加した活動をとおして、「川は物を捨てる場所」という認識が変わりました。



(川の清掃には若い世代も積極的に参加。)



(左:ゴミが分別されないまま風雨にさらされていた。右:改修後の集積場。)

そして活動3では、垂れ流しの下水に対処した浄化設備付きバイオガスを設置しました。また住民たちからの要望で、ゴミの集積場を分別場に改修し、リサイクル・リユースによる換金を始めました。

活動4では、都市部の学生を対象とした「環境学習の体験の場」を想定した取り組みを行いました。都市部では開発によって自然との付き合い方が変化し、農業の現場を見たり話を聞いたりする機会がなくなってきているからです。他にも農村文化フェアの開催や、エコツーリズムの研修などを実施しました。

(農村文化フェア。古い生活用具から農村の暮らしに触れる。)



こうした活動による大きな変化の一つが「地域の自信」の醸成でした。ゴミに対する認識が変わり、野山に投棄していたゴミが自分たちの活動次第でお金にも替えられること。農村文化フェアに多くの人が関心を示し、村を訪れてくれること。これらは自分たちの地域の自信へとつながりました。

もともと景観が素晴らしく美しい場所です。里山の保全が、今後も彼らの地域の発展の軸となっていくことを願います。

本事業はコロナ禍が重なり、進捗に例のない工夫が必要とされましたが、ネパール側のスタッフは臨機応変に対応してくれました。彼らの機転のよさや辛抱強さなくしてこのプロジェクトは成り立ちませんでした。優秀な現地スタッフには大変感謝しています。

(エコツーリズムの考え方を盛り込んだ観光客受入れ研修には多くの女性が参加。)



## ネパールの里山で Home Stay をしてみませんか？

Home Stay の特設サイトが  
リリースされました！

タハ市にクンチャールという小さな集落があります。そこではネパール族の人々が昔ながらの生活を守りながら暮らしています。

2009年、初めてこの村を訪れた前理事長の相川は、趣ある家並みと美しい景観に魅せられて景観保護へと乗り出しました。

村の人にとっては当たり前の風景で、最初は誰もピンと来ない様子でした。しかし里山保全事業の中で、村の清掃、伝統的家屋の瓦屋根の修復、日本人訪問客のホームステイと、時間をかけて一つ一つ行なっていくうちに、村の人たちの理解も少しづつ進んでいきました。

ネパールの観光年でネパール政府がホームステイプログラムを推進したこともあり、今では景観を活かし村をあげて訪問客を迎えています。

クンチャールへは、カトマンズから観光都市ポカラに向かう街道分岐点を入り 35Km、車で 3 時間の距離です。アドベンチャー気分を味わうならチャンドラギリという峠を越えて 1 時間半のルートもあります。いずれのルートもお天気がよければ、ヒマラヤの眺望が見事です。

クンチャール村にホームステイしにいきませんか？

ホームステイの詳細・ご予約はこちらから↓

<https://kunchhalhomestay.com.np>



飾らない  
村の暮らし、  
のどかな風景、  
ゆっくり流れる時間、  
そして  
たくさんの笑顔に  
出会えます。

## ホームステイ体験記（当会スタッフ：中村 愛）

(2022. 11. 7-9)

今回ホームステイをするメンバーは私と息子（5才）、娘（2才）、そして大学院生の4人。カトマンズからは片道3時間。途中からは旧道の未舗装道路で長いこと揺られ、子どもたちは終始揺れを楽しんではいやいでいた。

ホームステイ先に到着すると、まず目に入ったのは、らせん状に細く切り込まれ長く下まで伸びた干大根。里山への憧れからか「軒下で乾物づくりをしている家＝丁寧な暮らしをする豊かな人たち」と直結する私。（ここでは「丁寧」とかではなく、それが当たり前なのだが）ホームステイ先への期待が高まる。



すると若い男性が仔猫を片手に出迎えてくれ



る。そして奥からはニコニコした口達者なしっかりしたおばあちゃんも。さっそく「いらっしやい」の儀式ティカを授かる。赤い粉を纏った米を額につけてもらうのがネパールの慣習だ。

儀式が終わるとさっそくおばあちゃんが家族に号令を出す。「ロティを焼け」と。そしてこの若い男性は私たちに英語で一生懸命いろんなことを話しかけてくれる。決まりきったWELCOMEではない、一生懸命さが伝わり暖かい気持ちになる。

そしてクンチャール村のもう一つの魅力は、なんといっても昔ながらの暮らしが根付いた村全体を覆う佇まい。早朝散歩に出ると、家々からは朝靄をわけるように牛の鳴き声が響き、それを追いかけるニワトリの聲。時折、食器を触る生活音に交じって人の話し声も聞こえる。太陽が昇りだすと朝日が暖かい。乱反射した靄は街をつつみ、一層異世界のようなようである。



カトマンズから車で3時間。道中ゆっくりと玉手箱を開けたように、ここは霞の中で人ごと村全体が逆タイムスリップしたかのような。ネパールの都市部の勢いを肌で感じたあとに、この村を訪れると、暮らすことの価値観の眼鏡が壊れる。そんな体験が1つの国の中でできるのもネパールの魅力である。

\* 新理事長が就任しました ～理事長 気賀沢 忠文からのメッセージ～ \*

この度、私は LGJ（ラブグリーンジャパン）の理事長就任にあたり、心からの喜びと責任の大きさを感じております。思い返せば今から 30 年余り前、発足間もない LGJ の一員としてネパールの現場を訪れたことが、その後ネパールに深くかかわる契機となりました。プロジェクトサイトの村で、一人の農業青年が農協の必要性を熱心に私に訴えたことに私は深く感動し、協同組合の育成がネパールにおける重要なテーマとなりました。

時は移り 2004 年 10 月、神奈川県農協中央会を退職した私は、ネパールにおける協同組合運動の振興に貢献する JICA シニア海外ボランティアの一員としてネパールに赴任しました。赴任先の国立中央協同組合研修所で全国から集まる協同組合の役職員に日本の農協の実践事例を教えながら、カトマンドゥ盆地の中の協同組合を訪ねて協同組合の振興について語り合いました。

あれから約 20 年がたち、激動する世界の中でネパールの社会経済は大きな変貌を遂げました。NGO も協同組合運動も例外ではありません。その変化の中を生き抜いてきた LGJ と LGN（ラブグリーンネパール）は、これまでの経験と知見を活かしてよりよい協力関係を築き上げながら、協同組合との連携を模索するなどして、未だに課題が山積するネパールの農村の振興と農民の生活の向上のために、共に努力していきたいと考えています。

理事長就任にあたって・・・初心に帰って。



■ **緑の募金** - 公益社団法人 国土緑化推進機構

事業名：「パンチカール市 地域住民とともに森づくり」

（配分金額 1,846 千円）

本事業はジョンボテコミュニティフォレストを中心とした、周辺の植林です。森林管理グループと共にコミュニティフォレストへの植林を行い、用水路や貯水池を整備しました。また近隣の小中学校や区事務所周辺に、1 年間で小さな苗木を含めて 2,000 本余りを植林しました。コンポスト作りや、学校での環境教育講座も実施しました。



6 月 5 日の世界環境デーには、小中学生含め住民 175 名が参加し、皆で植林を行いました。

■ JICA 教師海外研修受け入れ

2023 年 8 月 4 日～6 日に、4 年ぶりに開催された JICA の教師海外研修で、パトレケット村でのホームステイの受け入れとパンチカールでの活動案内を行いました。2 泊のホームステイではそれぞれ貴重な体験をされたことと思います。モデル農家の訪問時はあいにく激しい雨が降り、畑の案内を早々に切り上げたため、農家の方とゆっくり話



をする時間も取れず残念でしたが、フィールド事務所で行った団体の活動説明では先生方から次々に質問が飛び出し大変有意義な時間となりました。

#### ■ 「グローバルフェスタ JAPAN 2022」 出展

2022年10月1日、2日。3年ぶりにリアル対面できるグローバルフェスタが復活しました。有楽町の国際フォーラムで屋内開催のイベントとなり、コロナ前に比べると小規模にはなりましたが、実際にブースに人が訪れ、現地についての会話をしたり商品の販売をしたり、人と直接交流できる場が持てたのは嬉しい限りでした。今後は、他のイベントに出展もしていきたいと思っています。



### 2022年10月 ～ 2023年9月の動き

- 2022年10月 1～2日 「グローバルフェスタ JAPAN 2022」 出展
- 14日 開智国際大学「国際社会貢献研究」にて活動紹介
- 16日 パンチカール市市長が横浜を訪問しラブグリーンジャパン役員と面談
- 2022年11月 2～12日 中村愛 ネパール出張
- 2日～12月16日 鈴木倫子 ネパール事務所駐在
- 21日 上智大学「南アジア研究概説」にて活動紹介
- 30日～12月7日 かがしま有機生産組合三箇良治氏による有機農法指導
- 2022年12月 9日 タハ市6区クンチャールにて農村文化フェア開催
- 2023年2月 18日 オンラインイベント「SDGs よこはま City 冬」に参加
- 2023年3月 2日 慶応大学EMBA コースのフィールドスタディー受け入れ  
新規 JICA 草の根技術協力事業採択される
- 2023年6月 4～6日 JICA 教師海外研修 ホームステイ、活動地訪問受け入れ
- 5日～9月26日 鈴木倫子 ネパール事務所駐在
- 2023年9月 30日 「グローバルフェスタ JAPAN 2023」 出展



当会の日常的な活動は  
Facebook<ラブグリーンジャパン>をご覧ください。



#### \* ラブグリーンネパール (LGN) の本部が引っ越しました \*

2023年1月に、20年余り事務所を置いてきたカトマンズ郊外のバインスパティからカトマンズ市内最大の野菜・果物市場、カリマティ市場の近くに引っ越しました。

(新住所) Kalanki Ward No. 14, Kathmandu Metropolitan City, Nepal

## 令和4年度 会費納入・募金ありがとうございました。

(2022年10月1日～2023年9月30日)

石原仁事務所/和泉田初代/海老澤健/大石正子/太田輝/坂本洋子/高柳紘子/中澤正子/土岐操/成瀬章/仁科博道/長谷川潤/宮原靖代/飯田よし江/三井良子/山下雅人/三田健一・悦子/本間ピアノ/草野明子/吉井万里子/平林繁/奥津良博/大堀研/中澤庸眞/久保田洋子/蛭名喜代作/西村充弘/黒川敏史/ナカザワ包材(株)/望月よし江/崎坂香屋子/佐久間潤/福田克美/開発直美/大川姉妹/緑川実佐子/鈴木勝雄・芳子/鈴木開・統真/相川明子/隅田一明/木村雅子/気賀沢忠文/タックインターナショナル

他：匿名希望の方 御礼申し上げます。(敬称略)

※イベントなどお手伝いいただいた方々、ありがとうございました。

昨年度は会費納入をお忘れの方がいらっしゃいました。

年に一度の会報でお知らせしております。

どうぞ、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

皆さまのご支援によって、私たちの活動は継続されていきます。

1口 5,000円 1口以上をお願いいたします。

ご住所、お名前、電話番号、口数を記入して下記へお振込みください。

振込先 (郵便振替) 00250-3-76570

(銀行振込) 三井住友銀行 日比谷支店 普通 8044951

特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン

\*切り干し大根、まもなく完成です！ご購入をご希望の方は事務局まで。(1月以降発送予定)

\*ご意見や感想なども事務局へお送りください\*

### 編集後記

冒頭でお伝えしたように、JICAの草の根技術協力事業が採択されてほっとしています。多くの方々のご助力のおかげと感謝しております。

しかし、これからが本番です。「販売への期待が膨らむ」とネパールで野菜の宅配事業の夢を描いてから早20年、ようやくここまで来ました。

都市部では、カフェやパン屋さんが急増、少しずつネパールの食も変わりつつあります。サラダやスムージーなど、今までと少し違う野菜の食べ方を紹介しつつ、安全野菜を広げていければと思っています。

SUZ